

# 岩見沢市総合計画に関する答申書

岩見沢市まちづくり基本条例に基づく総合計画の策定に当たり、平成29年8月31日に本市民会議の委員に委嘱された私たち15名は、これまでに8回の会議を開催し、慎重に協議を重ねてきました。その結果に基づき、以下の通り意見を付して答申します。

平成30年3月23日

岩見沢市長 松野 哲 様

岩見沢市総合計画策定市民会議 会長 堀 利 幸  
副会長 東海林 公 子

## 1 総合計画の名称 『第6期 岩見沢市総合計画』

## 2 総合計画策定に当たって

総合計画は、岩見沢市の部門別計画すべての基本となり最上位に位置づけられる計画であり、長期展望に立つ行政運営の指針であります。少子高齢化が進む中で、すべての市民の幸せに向け、また人口減少に歯止めをかけながら岩見沢市の活力ある未来への道を拓く長期計画でもあります。

本市民会議では、その基本に立って岩見沢市の現況と課題、現計画の評価、市町村合併の検証などを確認するとともに、策定に当たっての「1万人アンケート」や策定中における「パブリックコメント」などの市民意向を踏まえながら協議を進めてきました。

各委員からは、現況や課題に対する鋭い視点に立った未来に向けての積極的な発言が交わされ、その成果が反映された基本構想と基本計画をここに取りまとめることができました。

## 3 総合計画の構成

### (1) 基本構想

#### ① 基本的視点

視点1 市民主体による協働のまちづくり

視点2 地域特性を活かした魅力あふれるまちづくり

視点3 次世代につなげる持続可能なまちづくり

#### ② 将来の都市像

『人と緑とまちがつながり ともに育み未来をつくる 健康経営都市』

#### ③ 施策の大綱

6項目の基本目標のもと、32項目の基本施策とその大綱を定めた。

## (2) 基本計画

32項目の基本施策のもと、81項目の取組方針とこれに基づく推進項目を立て、整合性に留意しながら体系的に整理した。

なお、個別・具体的な意見や提案については、関連する取組方針の中で包括的な位置付けを図ってきた。

## 4 答申に当たって

10年先の情勢をどうとらえて計画し、行政運営するかはいつの時代も困難であったと思われます。5期に亘って策定されてきたこれまでの総合計画と変わりなく、今回も将来を見越す難しさは同じでした。

特にICT・ロボット・人工知能(AI)の進化は著しく、その影響が仕事のしかたや身近な日常生活に関わるニュースも日々報道されるなど、ワークライフバランスの観点からも、市民の暮らし方や考え方が大きく変化していくことが予想されます。

このような状況のなかで、「総合計画はまちづくりの道しるべ」として、行政が堅実に役割を果たすことを期し、市民目線で施策のあり方に向き合い協議して参りましたが、これからの社会情勢は予測を超えるスピードで著しく変化し、市民の市政への期待や要望も変わっていくと思われますので、その状況を的確に把握し、機に応じ弾力的に計画の推進に当たることを求めます。

なお、各委員からは協議の過程で様々な意見が交わされていますので、今後の行財政運営の中で適切に反映されていくことを希望します。